

長岡東西道路の整備効果

Impact of Route NAGAOKATOUZAI

丸山 準*・川岸 眞一**

By Jun MARUYAMA and Shinichi KAWAGISHI

1. はじめに

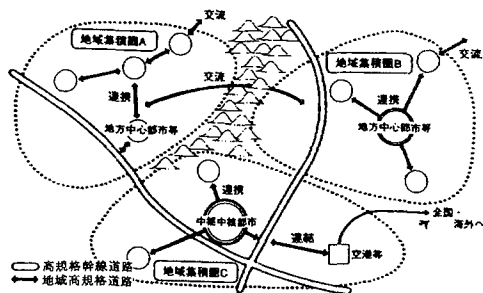
地域高規格道路は、『連携』、『交流』、『連結』機能のいずれかを有する道路で、自動車専用道路もしくはこれと同等の高い規格を有し、60～80Km/hの高い速度サービスを提供できる道路である。

○連携機能：通勤圏の拡大や都市と農村地域との連携の強化等による地域集積圏の拡大を図る環状・放射道路

○交流機能：高規格幹線道路を補完し、物資の流通、人の交流の活性化を促し地域集積圏間の交流を図る道路

○連結機能：空港・港湾などの広域的交流拠点や地域開発拠点等との連絡を図る道路

■ 地域高規格道路の機能と役割



平成4年6月の道路審議会建議『「ゆとり社会」のための道づくり』においては、「活力ある地域づくり」を進めるため、魅力的な「地域集積圏」の形成を図るネットワークの軸として地域高規

格道路を位置づけ、整備を推進していく必要があるとしている。

長岡東西道路は、中越地域の中心都市・長岡市の信濃川を挟んで形成される東西の市街地を結ぶ約13kmの道路であり、長岡駅周辺の中心市街地（川東地域）と新市街地（川西地域）及び周辺市町村を連携する基軸として、長岡市周辺地区の交通機能強化路線の中でも特に重要な路線として位置づけられている。

このような状況のもと、長岡東西道路は平成6年12月に地域高規格道路の「計画路線（全国で138路線、約5,320km）」の1路線に指定され、さらに平成7年8月には「調査区間（全国64路線の74区間、約640Km）」の1路線として、高畑～新産の約6.0kmが調査区間指定を受けている。

本検討は、長岡東西道路の整備が長岡市及びその周辺地域に与える整備効果を取りまとめたものである。

2. 長岡市の変遷

長岡市街地は中心を信濃川が南北に貫流しており、川東地域に既存中心市街地、川西地域に新市街地が形成される都市構造となっている。

長岡市の市街地形成は、信濃川渡河橋の架橋と共に拡大してきた歴史がある。また、近年は高速自動車道の開通を契機に、長岡ICとのアクセス性に優れる川西地域に開発計画や郊外型大型店の進出が集中し、市街地は川西地域に拡大する傾向にある。

川西地域の市街地の拡大に伴い信濃川を挟んだ東西の交通流動は増大し、信濃川の各橋梁において慢性的な渋滞が発生している。

キーワード：地域高規格道路、整備効果

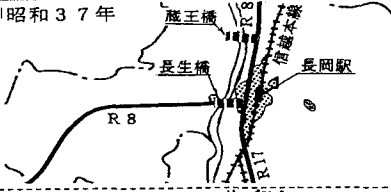
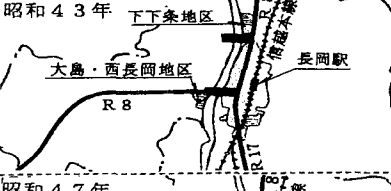
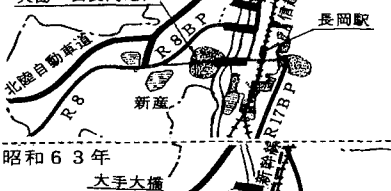
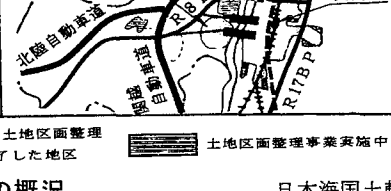
*非会員、建設省北陸地建長岡国道工事事務所
(長岡市中沢4丁目430-1, Tel 0258-36-4551,
Fax 0258-34-3186)

**非会員、建設省北陸地建長岡国道工事事務所

長岡市は、川東・川西地域の均衡ある発展による二眼レフの都市構造を目指しており、このため

には、東西軸の強化が不可欠である。

信濃川橋梁の架橋と市街地形成の変遷

信濃川橋梁架橋年次		市街地形成の変遷	
昭和11年 昭和12年	蔵王橋（旧）架橋 長生橋 架橋	昭和37年 	・川東地区で長岡駅を中心とした土地区画整理事業が完了し、市街地が形成。
		昭和43年 	・川東地区の蔵王橋周辺で土地区画整理事業（下条地区）が実施され、橋詰めで工場立地。 ・川西地区長生橋橋詰めで土地区画整理事業が実施（大島・西長岡地区）
昭和45年	長岡大橋 架橋 （暫定2車）	昭和47年 	・川西地区の国道8号BP（長岡大橋）と蔵王橋に挟まれた地区（蓮湯地区、江陽地区、鉄工団地地区）で土地区画整理事業が実施。 ・長生橋橋詰め（大島・西長岡地区）で西側に市街地が拡大。
昭和53年	北陸自動車道 新潟～長岡間開通	昭和56年 	・川西地区の長岡IC周辺で新産業センターや関原地区の土地区画整理事業が実施。 ・川西地区の長生橋橋詰め（大島、西長岡地区）がD1D地区に成長。
昭和57年	大手大橋 架橋 （暫定2車）	昭和63年 	・川西地区の新産業センターの土地区画整理事業が進み、企業立地が進行。
平成元年	長岡大橋 4車化	平成6年 	・川西地区の国道8号BP（長岡大橋）と蔵王橋に挟まれた地区（蓮湯地区、江陽地区、鉄工団地地区）が平成2年にD1D地区に成長。 ・川西地区の長岡大橋と大手大橋に挟まれた古正寺地区で土地区画整理事業が実施。

3. 長岡地方拠点都市地域の概況

日本海国土軸形成の先導的役割を担っている。

- ・日本有数の積雪地域であり、3～4日に1日は降雪日となっている。

【広域的な位置づけ】

- ・新潟県の中央に位置し、高速交通体系等の交通条件に恵まれた立地条件である。
- ・日本海側地域と首都圏との接点に位置し、

【人口】

- ・都市圏全体としての人口は停滞しており、長岡市とのアクセス性に劣る市町村では、人口特

に若者の流出が顕著である。

【産業】

- ・ 「信濃川テクノポリス」の指定地域内に含まれ、製造業を中心とした高度技術産業の集積に向け積極的に取り組んでいる。
- ・ 長岡市の中心市街地における商業の地盤沈下が問題となっている。

【交通】

- ・ 当地域の交通流動は長岡市への一極集中型となっており、長岡市街地に向かう交通が国道8号・17号・351号等の幹線道路に集中し、交通混雑が起きている。
- ・ 特に当地域は信濃川により大きく2分されており、信濃川橋梁部（5橋）での交通容量不足から信濃川断面での交通混雑が著しい。
- ・ 長岡市街地での交通混雑が、長岡市の主要施設へのアクセスを大きく阻害している。
特に冬期においては、積雪による影響でアクセス性は更に悪化している。
- ・ 第2次長岡発展計画においては、長岡地方拠点都市地域内の一体化を図るため、長岡市と周辺市町村を20～30分以内でアクセスする交通ネットワークの整備を課題としている。

4. 長岡東西道路の必要性

以上の背景から長岡東西道路の必要性を、当路線の果たすべき機能と役割の観点から整理する。

【機能と役割】

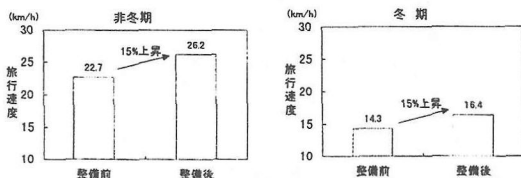
- ・ 長岡地方拠点都市を中心とした「連合都市圏」を形成する。
- ・ 都市環状道路を形成する。
- ・ 高次医療ネットワークを形成する。
- ・ 緊急輸送ネットワークを形成する。
- ・ 広域交流軸を形成する。
- ・ 新市街地（川西地域）、中心市街地（川東地域）との連携を強化する。

5. 長岡東西道路の整備効果

長岡東西道路の整備効果を以下にとりまとめる。

(1) 信濃川断面における交通混雑緩和

- ・ 市街地部信濃川橋梁では、混雑度が未整備時の1.72から1.18に緩和され、川東・川西地域のアクセス性が向上するとともに、市街地の平均旅行速度も上昇する。

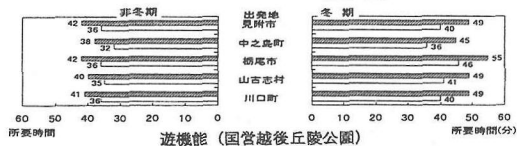
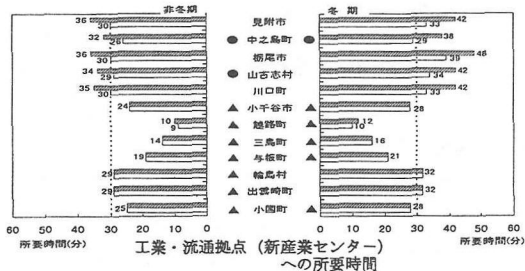
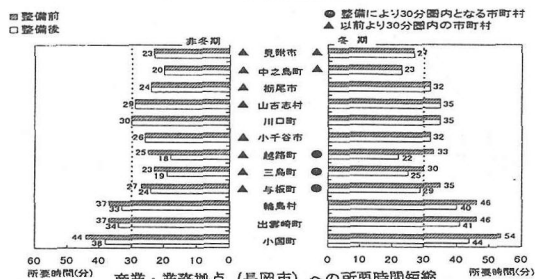


市街地の平均旅行速度の上昇

- ・ これにより、以下の効果が期待される。

□ 日常生活交流圏の拡大

- ・ 長岡市に集中する都市施設へのアクセス性が向上し、日常生活交流圏が拡大する。
- ・ 長岡市への冬期30分圏域が拡大し、人口カバー率が75%に向上する。



□ 川東・川西地域の連携強化

- ・ 川東・川西地域の連携が強化することで、均衡ある二眼レフの都市構造の形成が支援される。

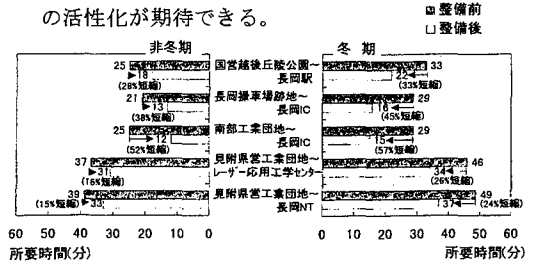
□ 広域道路の機能回復

- ・ 国道8号の広域道路としての機能回復および長岡ICへのアクセス性の向上が図れ、広域交通体系の有機적連携が強化される。

□ 土地区画整理事業の支援

- ・ 広域道路網や中心市街地とのアクセス性が向上し、沿線の土地区画整理事業の推進が支援される。

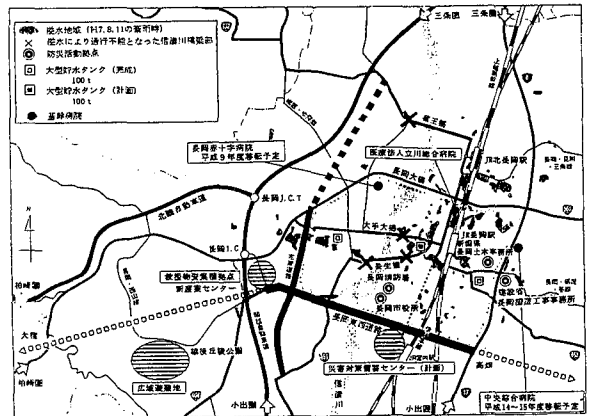
- ・ 長岡東西道路の整備による各拠点間のアクセス性向上と長岡ICとの直結により、開発計画の促進や産業の高度化が図れ、地域全体の活性化が期待できる。



開発拠点～広域交流拠点・学術研究施設間の時間短縮

(4) 地域防災への支援

- ・ 国道17号と左岸道路を介して、東西軸を国道8号と相互に補完する防災ルートが確保される。
- ・ この結果、周辺の圏域からの輸送路が強化されると共に、防災活動拠点、(国・県・市町村)庁舎、警察署、消防署、備蓄物集積拠点、広域避難地を直結した信頼性の高い防災ネットワークが形成される。



高次医療・防災ネットワークの形成

5. おわりに

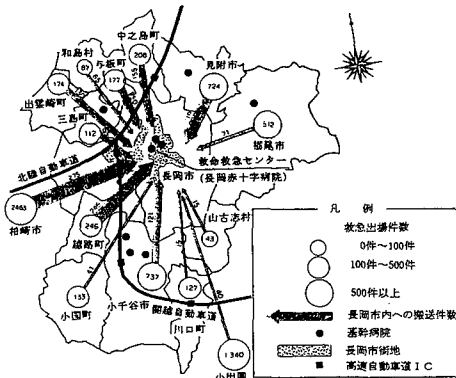
本検討は、地域高規格道路である長岡東西道路のもたらす整備効果を把握した。

現在の長岡東西道路の計画は、長岡市高畑～大積の約13.0kmにとどまっているが、長岡東西道路に求められる連合都市圏の形成の観点から考えると、終点の長岡市大積から柏崎県までの整備の方向についても、今後検討していく必要がある。

(2) 高次医療ネットワークの形成

- ・ 基幹病院を相互に連絡する形で国道8号、17号、左岸道路による高規格なアクセスルートが形成され、高速自動車道との連携も強化される。

この結果、救急搬送時間が短縮される他、病院相互の連携が強化され、中越地区全体の高次な広域医療サービスの充実が図れる。



長岡市に集中する救急搬送

(3) 開発拠点への支援

- ・ 長岡東西道路付近には、長岡操車場跡地区、長岡業務拠点地区、長岡ニュータウン、国営越後丘陵公園等の大規模開発拠点の他、「信濃川テクノポリス開発計画」を支援する長岡技術科学大学・レーザー応用工学センター等の学術施設がある。